

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム すこやか
(ユニット名)	1階・2階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県日置市東市来町湯田3007番地
記入者名 (管理者)	橋西美枝子 ・ 久保 浩文
記入日	平成 21 年 7 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域社会の一員として」安心して過ごせるという地域密着型サービスの趣旨を反映させた理念をつくりあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、すこやか会議やミーティング、勉強会などを通して、理念に沿ったサービス提供が行えるよう話し合いが行われ、実践に取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	見学者やご家族に、理念の説明や日々の暮らしについて、説明を常に行っている。又、2ヶ月に1回の運営推進会議や年2回の家族会、毎月発行するすこやか便りを通して、すこやかを知ってもらえよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物で出会う方々と気軽に声を掛け合ったり、立ち寄りしてもらえるように日常的な会話をしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加はもちろんのこと、自治会への加入も行っており地域の一員として交流が図れるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方々へ何でも気軽に相談して欲しいことを、公民館長さんやご近所の方々へ呼びかけている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>意義を理解する為に、自己評価は職員全員で取り組み、指摘事項等は、改善に向けて積極的に取り組み実践している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に行われる運営推進会議で、生活状況及びサービス提供状況を報告しており、意見交換を通して、毎月の振り返りを行い、サービス向上に向け取り組んでいる。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村とは書類手続きやサービス提供に関し、何でも気軽に相談にのってもらえるような言葉かけをしてもらっており、意見交換をしながらサービスの向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>過去に成年後見制度を利用した事例はあるが、現在対象者はいない。必要な方がいらした場合には、支援していきたい。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>すこやか会議や勉強会を通し、職員の言葉かけでも虐待となる場合もあることを理解し、職員一人ひとりが注意を払い、防止に努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は、本人、ご家族に配布し、十分な説明を行い理解及び納得を図っている。解約は契約者との話し合いの中で、信頼関係のもと円滑に行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からのサインを見逃すことのないよう、些細な事でも職員が早めに気づき対応出来るように努めている。また、個別の会話に努め、不満や相談事などないか確認し、早期解決を図っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態については、毎月「すこやか便り」や「お手紙」でお知らせしており、面会に来られた際にも、近況状況を報告している。金銭管理については、個々にあわせた報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置及び外部機関の相談窓口の掲示を行い、意見を受け付ける体制をとっている。また、苦情、要望が聞かれた際には、改善に取り組んでおり、運営推進会議でも報告している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングやすこやか会議等で、職員からの意見を聞くようにし、話し合いの中で取り入れるようにしている。また、職員との個別面談を行ない、意見や助言をしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月休み希望を受け、職員の希望を取り入れている。また、変更や行事など人数を要するところは、柔軟に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代が利用者へ与える影響を配慮し、対応方法を検討している。入退社時の挨拶でも、不安定となる入居者がいる時は静かに入退社してもらっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内学習のほか、外部研修へは随時参加しており、毎月の勉強会やすこやか会議を通して、日々の生活を振り返りながらトレーニング出来るよう職員育成に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム、運営推進会議への参加を行い、交流や意見交換が出来る。また、グループホーム協会の研修参加などを通して、質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティングやすこやか会議などを通して、個々に合わせた解消が出来るよう環境づくりに努め取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ミーティングやすこやか会議を通して、個々の意欲向上が図れるよう意見交換に努めている。また、入居者個別の問題に取り組む、毎月評価をしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の際、意向を確認し、ホームの見学や日常の過ごし方など説明し不安の解消に努めている。また、入居された時点からも日々声かけし傾聴する事で、信頼関係づくりに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談時に困っていること、不安なことなど、何でも相談しやすい雰囲気づくりに努め、ご家族が面会に来られた際も、生活状況の報告や要望等がないか確認し、信頼関係づくりに努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者及びご家族が何を望んでおられるかを良く聞き、どのような支援が最適か、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人や家族の見学を実施し、ひと時の時間を一緒に過ごしながら雰囲気を感じてもらったり、気軽に来れる雰囲気づくりなど個々にあった工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	老いや認知を感じさせないよう、言葉かけには十分配慮し、調理の仕方や畑仕事など、入居者から教えてもらい、お互いに支えあう関係が築けるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	散歩や行事など共に過ごす時間を共有し、職員、入居者、ご家族の想いにズレが生じないよう、一緒に支えていく関係づくりに取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には生活状況の報告を行い、入居者、家族の想いを共有している。また、毎月、職員のお便りや手紙を書き送付し、ご家族との関係づくりに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院へ行ってもらったり、友人からのお便りの返書書きをお手伝いし、なじみの関係が途切れないよう支援している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席順の配慮を行いながら気の合うお友達とテーブルを一緒にしたり、さりげない言葉かけや援助で、入居者同士関わり合いがもてるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>困ったことや分からないことなど、いつでも相談していただけるような関係づくりに努めている。また、病院のMSWや居宅の介護支援専門員とも情報交換が出来るよう連携に努めている。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>介護計画作成時に、本人、ご家族にどのような暮らしを希望されるか良く聞き、希望に沿った暮らしが出来るように努めている。また、日頃の談話の中からも想いを受け止め、暮らしに活かせるよう努めている。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>アセスメントや日頃の談話の際、入居者個々の想いを受け止め、ご家族や知人からも、生活歴などを聞くように努めている。また、ミーティングや会議を通して、ホームでの生活が充実したものになるよう話し合い連携に努めている。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の変化など申送りや日誌等で情報を共有し、心身の状態把握に努めている。また、モニタリングやアセスメントの際の情報を介護計画に活かし、快適な日常生活が送れるよう努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントの際、本人及びご家族、必要な関係者と話し合い、会議や申送り等で職員との意見交換を経て、介護計画を作成している。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画作成は入居されたときから介護保険切り替えの時期までを基本に作成しているが、毎月モニタリングを行い変化がないか、本人、ご家族、スタッフと意見交換を行い介護計画に反映させている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや、実践、結果など、個別に記録し日誌、送りノートで情報共有している。不明な点はその都度確認して、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の通院介助や外出、外泊支援、個別買い物支援を行っており、家族宿泊時は布団、食事提供できる体制はある。外出の際、車椅子等必要な物についても貸し出しを行い、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんはもとより地域の方々にホームの事を知っていただき、ボランティアなど協力をもらい支援している。防災訓練も年2回実施し、避難誘導訓練など地域の方々の協力をもらいながら行っている。また、人、団体に限らず物や乗り物等の活用も行い支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて他のサービス利用を支援する体制はある。他施設の行事などにも参加し、地域のケアマネジャーとの連携にも努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて、地域包括支援センターと協働する体制はある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の支援は、本人の意向やご家族の希望を優先し支援している。協力病院で定期的な受診を行い、適切な医療ケアが提供できるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議や勉強会を通し自尊心を傷付けないよう説明している。また、日常的に職員間でもやさしい言葉かけが出来るように配慮している。個人情報についても、ホーム外では入居者の事にふれてはいけない事を嚴重注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の残存能力を活かしたケアが出来るよう、会議や勉強会を通し説明している。また、言動の観察を行い、個人の希望や選択を大事に考え、職員中心の言葉かけにならないよう支援している。自己決定できない方には、その方の気持ちになり支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、日課に沿った生活ではあるが、個人の意向に合わせ、無理強いしないよう言葉かけを行い、希望があれば可能な限り対応し支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床と就寝の際は、更衣を行い服装は本人の嗜好にあったものを着用されるよう支援している。また、化粧をされる方の見守りや慣れ染みの美容院に行かれる方への支援に努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事嗜好を把握し、状況や希望によって対応出来るようにしている。また、食事づくりから後片付けの参加は、個々の能力に応じた支援を行い楽しい食事が出来るよう配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこなど希望があれば、個々に合わせた支援が行える。また、おやつなどについても日常的に会話を行い嗜好に合わせた提供ができるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々にあった排泄パターンを把握し、排泄用具の昼夜の使い分けや、言葉かけでの誘導をしている。又、オムツを使用しないケアを目指し、会議や申送りの中で共通理解が出来るよう努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望があれば毎日でも入浴は可能であり、一人ひとりに合った入浴の介助を行い、状況に合わせた入浴を支援している。また、入りがらない入居者の方にも、気分の乗る言葉かけで対応している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室にカギをかけなければ眠れない方や、水を足元に置きたい方や10時過ぎにならなければ眠れない方など、個人にあった対応をしている。又、天気の良い日は布団干しやシーツ交換を職員と一緒にいき、清潔、安眠に向けての支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人にあった気晴らしの仕方、散歩や会話などご家族からの情報や職員の観察から、入居者個々の得意な事を見出し、生活習慣を活かしながら支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力にあった金銭管理を行ない、行事や買い物への参加で、使える支援を行なっている。また、ご家族の理解のもとそれぞれに対応できるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に全入居者が戸外へ出掛けられるよう、積極的に散歩や買い物などを通し外出している。また、個人の希望があれば、可能な限り対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月季節にあった行事を行い、家族と一緒に過ごす機会をつくり支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはもちろん、携帯電話を持たれている方、自分でかけたいとの希望があればいつでも対応している。また、年賀状や書中見舞いのハガキのやり取りを行い、日頃もお手紙が届けば返書が出せるよう支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	外出先で会った際も、面会を促したり、ご家族や友人など面会があれば居室で対応し、個人がプライベートな時間を過ごしやすいように配慮している。面会時間は相談に応じて対応出来るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃及び言葉による抑制について、会議を通し話し合っている。身体拘束をしていないことは、ご家族へも伝え承頂いている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることも身体拘束になることと自覚しており、ホームの出入り口に、ブザーを設けて入居者の方々の安全に配慮したケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在や動作時の確認は、職員がさりげなく気配り、言葉かけをし安全に生活できるよう支援している。また、アクシデントが生じた場合には、職員間で話し合い再発防止に取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じて改善に向けた取り組みを行っており、保管管理が必要な品については、職員間で話し合い、家族の同意を得た上で事故防止のため職員管理としている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	環境の安全やアクシデント防止対策は日頃より心がけており、会議やミーティングを通し検討を行い、個々の状態に応じた事故防止及び改善に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応について外部講師(救急隊員)をお願いし研修を行ったり、協力病院とも夜間の電話取次ぎ、指示などで連携はできている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災非難訓練は入居者参加で、年2回実施しており、近隣の方々や御家族の方々にも訓練の様子を見学してもらい、災害時の協力をお願いしている。また、非常災害用の保存食、飲料水、生活排水用の水等準備し、安心して生活が送れるよう支援している。		
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクが伴う入居者様に限らず、入居者様のご家族へはどなたにもリスクの説明を行い、リスクが生じた時は記録を残し、会議で検討し安全な生活が出来るよう取り組んでいる。また、事例についても運営推進会議や家族会で報告している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェック及び生活時の行動変化、体調変化があった際は、ミーティング等で情報共有し個々の状態に応じた対応を行っている。また、医療機関との連携で定期的な検査を行い、体調変化の早期発見に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、全職員が携わり個々の情報を共有できる体制は出来ている。変更があった際は、副作用等の変化が無いかわり観察を行いミーティング等で情報共有に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃より食事のバランスや適度な運動、水分補給などに配慮し取り組んでいる。また、便秘についての理解をし、下剤に頼らない形で自然排便が出来るよう支援している。また、トイレの便座が高く床に足が付き難い入居者もおおり低床便器へ交換してもらい環境への取り組みも行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの状況をさりげなく確認し、入居者個々の状態に応じて、言葉かけや誘導、介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持ち込んでいただくよう声かけし、居室も本人が住みやすいように配置を工夫している。仏壇や位牌、テーブル、椅子など特に禁止しているものは無く、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除の時はもちろんのこと、入居者の状況に合わせて窓を開け換気を行っている。温度調節も気候によって空調を入れ管理している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールやトイレ、浴室など手摺りを設置し、入居者個々の安全に配慮してある。車椅子や、シルバーカーを利用しても安全にすれ違う事ができ自立した生活が送れるようテーブル配置など環境への配慮も工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の能力を理解し、個々に応じた支援をしている。トイレや居室、洗面所等表示や目印をつけ自立して暮らせるよう環境への工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでの洗濯物干しなど自由に出入りができ、季節の花を植えたり観賞できる。また、建物裏にある畑でも季節の野菜作りから収穫、草取り等入居者と職員と一緒に活動できるよう安全管理のもと活かしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

静かな住宅街に位置し、周りには公園や商店があり安全に散歩や買い物が入居者様と出来る環境にある。入居者様の生活の中で一番の楽しみは食事であり、日々のメニューを工夫しながら美味しい食事作りに取り組み、また、ボランティアの受け入れや季節の行事を通し入居者様・家族との交流が出来ている。職員も勉強会や、研修、QC活動等でケアの質の向上に努めている。